

「宮越家」 春公開が行われる

今年も大正浪漫おたる宮越家の春公開が6月4日(土)から7月3日(日)までの約1か月の間行われました。

初日にはオープニングセレモニーが開催され、宮越家12代目当主宮越寛さんは「ステンドグラスや庭園など中身が濃い宮越家ワールドを今日は堪能して欲しい」とあいさつをしました。



春公開初日の様子

まずは、涼み座敷の間のステンドグラス、「四季花木障子」。

背面の庭園を借景としてやっていることから、新緑から紅葉へ、そして白一色と、四季折々の景観がステンドグラスを通して映し出されることとなります。

また、ガラス戸を開けて使用することも想定し、二枚のガラス戸を重ねても図柄が重ならないよう工夫がされています。



「四季花木障子」

次に、ステンドグラス「十三瀉景観」「水辺の風景」。

「十三瀉景観」は古来多くの人々や物資が行き交った十三湖の景観をモチーフとしています。また、廊下を人が通ることなどで光が動く、湖の水面があたかも動いているように見えます。

風呂場にある「水辺の風景」は、カワヤナギやカワセミ、ショウブといった水辺の生き物をモチーフとした水処にふさわしい図案となっています。現在、中に入っている見学はできませんが、庭の見学の際に裏側から見る事ができます。



「十三瀉景観」



「水辺の風景」



「静川園」庭前

最後に、庭園「静川園」。
こちらから眺望される庭園は、青栗石で枯池を表現した「庭前」と、湧水を利用した「池泉」から構成される庭園「静川園」です。大正時代、宮越正治が、離れ「詩夢庵」とともに整備したものです。
昭和の初めに大規模な改庭がなされ、仏堂「達磨堂」などが建てられました。改庭時の新たな要素は、日本画家橋本関雪が京都東山に開いた「白沙村莊庭園」と共通します。



「静川園」池泉

また、シャトルバス停留場のパルナス内にある博物館では、宮越家春公開に合わせ、企画展「ヤマシチ宮越家のものがたり」が開催され、宮越家の見学と合わせて見に来る人がたくさん見られました。



博物館の企画展「ヤマシチ宮越家のものがたり」

今年9月24日(土)から秋公開も予定しています。
秋になると涼み座敷の間のステンドグラス越しの景色が変わり、春に見学した人でもまた違った雰囲気を楽しむことができます。
ぜひ、一度見た人もまだ見れていない人も、大正浪漫かおる宮越家で歴史を感じてみてくださいか？